

忍川の旧流路を歩く

2015年2月26日
環境グループ第5期生

散策日 2014年11月3日(月) 9時～15時

順路 上忍川(杣殿分水堰～水城公園)→下忍川(水城公園～忍川)

参加者 全員

1. 忍川の経緯

江戸時代の享保13年(1728)の見沼代用水の開削に伴い、城下町行田に於いても、忍川(現在の酒巻導水路との合流点付近～佐間地区内の旧忍川との合流点～見沼代用水の間)が開削され、「長野口」には船着場が設けられ城下町行田の玄関口として、繁栄するようになった。

又、行田地区の排水は上忍川及び下忍川等から忍川に合流し、見沼代用水へ放流されるようになった。

見沼代用水は経済性を考慮して、地形的に高いルートが選定され、導水路としての機能には問題ないが、水位が高いため見沼代用水へ排水していた長野落とし及び関根落とし等では浸水等が発生していた。このため「元荒川支派川改修事業」で長野落としは旧忍川を、関根落としは見沼代用水を伏越で横断し野通川へ付け替えられた。

昭和7年には、行田市小敷田地区より市街地北部まで忍川の新水路を開削すると共に、佐間地区内の旧忍川との合流点から元荒川まで新忍川が開削され、接続先も見沼代用水から元荒川に付け替えられ、現在の流路となった。これにより旧忍川は廃川となった。

2. 埼玉県下の河川改修

明治29年(1896)河川法が制定され、重要河川が国の直轄工事となり、利根川、荒川、江戸川、渡良瀬川等の改修工事が順次実施されるようになった。又明治32年(1899)には耕地整理法が公布、明治38年(1905)にその目的に水利を考慮した「灌漑排水に関する設備並びに工事」が追加され、より積極的な治水事業を展開し、国の直轄河川改修と関連して、河川並びに用悪水路の改修及び水源地の調査に基づき下記の13河川の改修計画が策定された。

河川の整備計画は費用と工事期間の短縮(早期達成)を考慮し、洪水時対策ではなく平水時に於ける冠水の被害を除去することを目的とした。

洪水対策としては、豪雨時等に忍川の水が武蔵水路へ放流する佐間水門がある。

13河川の改修計画		
事業名	当初計画年度(年数)	最終計画年度(年数)
大落古利根川、青毛堀、備前堀、姫宮落、隼人堀の各支川改修	大正7～大正16(10ヵ年)	大正8～昭和6(13ヵ年)
元荒川(野通悪水・忍川・星川を含む)、綾瀬川、芝川、福川の改修	大正8～大正17(10ヵ年)	大正8～昭和9(16ヵ年)
新河岸川改修	大正10～大正17(8ヵ年)	大正10～昭和4(9ヵ年)

※新編埼玉県史(通史編6近代2より)計画が遅れたのは大正12年の関東大震災、その後の物価騰貴や昭和初期の恐慌による不況の影響があった。

3. 上忍川(杣殿分水堰～水城公園)

今回の散策の最上流は杣殿分水堰とした。上忍川は幅 5 間(約 9m)の緩流・清澄な川で、水源は熊谷駅石上寺より発し、戸出・平戸・持田の3村を流下し、東方に流れ忍沼に入る(武蔵国郡村誌より)とある。杣殿分水堰では銘板から、工事の竣工が昭和9年6月であることが確認された。

昭和9年は行田市駅北側の忍川と新忍川の開削(昭和7年)及び新忍川のアーチ橋などの完成(昭和8年)に続く年で、昭和初期の一連の忍川の改修工事が杣殿分水堰からの取水で完成したことがわかる。

従って、この一連の工事の完成で、浸水対策は新忍川(忍川本流)が、又農業用水の供給は上忍川が担うことになった。

杣殿分水堰から菅谷八幡神社までは、松杭と石を使った護岸で昔の面影が見られるが、菅谷八幡神社の鳥居辺りからはコンクリートの護岸となる。上忍川、下忍川のほとんどの部分がコンクリートの開水路と鉄柵で造られているが、ここは自然の残された貴重な場所である。水路の横には空間が残されていて、駐車場に使用されているが、ポケットパーク等を作り、上忍川、菅谷八幡神社、忍氏等についての案内板を作りたい所である。

菅谷八幡神社の西側には、レンガ造りの流入樋管があり、右書き・和文字で「明治 36 年杣殿樋管 4 月竣工」と刻印されており、上忍川側にフラップゲート(逆流防止弁)が取り付けられていた事を示すピンが残っていた。ここには、現在の平戸都市下水路系統の排水が流入していたと思われるが、新忍川の完成に伴い不要な施設となった。

菅谷八幡神社は、建久元年(1190)頼朝が権大納言兼右近衛大将に任じられた時の上洛時に京の石清水八幡宮へ参詣の際、お伴をした忍三郎が供奉し、帰村後に勧請したものとする。



杣殿分水堰



松杭と石を用いた護岸



杣殿樋管



菅谷八幡神社

菅谷八幡神社の前で、これまで道の左側だった上忍川は道路の右側に変わり、ここから先の川幅はかつての三分の一以下と狭くなる。この川沿いを行田～熊谷の旧道が通っているが、旧上忍川を埋めて作成した道路であるために、交通量に比べて道路幅が広く感じられた。この先には、宝蔵寺、長福寺の2寺と剣神社がある。

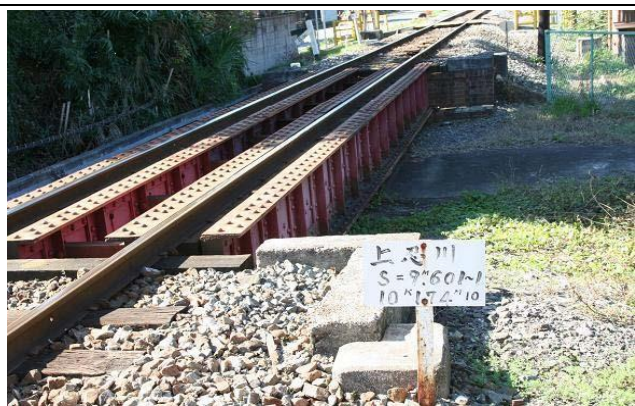
宝蔵寺…紙本着色十二天画像(室町時代—非公開)

長福寺…木造阿弥陀如来座像(鎌倉時代末期—非公開)

剣神社…日本武尊が東征の際、当地付近で剣を杖にして休息したことから、村民が神体にして創建したと伝えられる

さらに進んで秩父鉄道の踏切横には、上忍川を越えるための秩父鉄道の鉄橋が残っており、鉄橋の下の上忍川は暗渠になっている。この踏切に「上忍川」と川名が記載されている。今回の散策で上忍川の名前を刻んだ標識はここ以外にはなかった。

国道 125 号線を横切る場所は、かつて「ドカドカ」と呼ばれた滝があった所である。現在、堰はあるが水が流れていないため、滝の音は聞こえない。この堰で東へ分岐する流れがある。東へ向かって道路を横切ると、再度、北へと流れが分岐している。東への流れは、「満る岡」の庭に通じており、近くで農業用水として使用されているとのこと。



秩父鉄道



西浦橋(ドカドカ呼ばれた場所)

本流は国道 125 号線を横断し、行田市消防団西部警備隊裏の分水堰で、南進し前谷落しに合流する水路と東進する本流に分かれる。本流を進むと持田保育園があり、その前に「日清、日露、日独、戦没記念碑」と「持田村合併記念碑」が建っている。さらに進むと水路の北側に三八染工場が見える。かつてこの工場では、この水路の水を染物に使用していたと言う。

この場所の南側には大雄山正覚寺がある。この寺は天正 6 年(1590)忍城主成田氏長によって創建された寺院で、徳川家康の四男、松平忠吉の子(梅貞童子)の墓がある。梅貞童子は 1598 年に早世したという。又行田郷土博物館には「梅貞童子の御守筒…レプリカ」が展示されている。



消防団西部警備隊裏の分水堰



大雄山正覚寺

このまま進むと持田駅から南に続く道に出る。この辺りで川沿いの道が消えるので、少し南側を回り道し、茅葺きの民家を見ながら進むと、国道 125 号線の城西四丁目の交差点南側 50m 付近で再度上忍川の側道に出る。道路の中央が水路で、川の両側が一方通行の道路になっている。

忍城今昔地図にも同じ形の道路がある。この道は忍城領域外で西に向かって進んでいる。水の流れに変化はないが、兩岸の護岸及び転落防止柵がこれまでよりも立派である。この道路の中程には大木と赤鳥居が目を引き小さな神社がある。道路工事や橋の建設を記念した昭和 7 年の記念碑が建っている。昔は大きな神社だったようで、大きな狛犬の台が左右に残っていた。さらに進むと忍城持田口から南に 100 m の所に出る。

ここで上忍川からはなれて、100m程東に進むと右手に大宮神社が現れる。ここで左手には再度上忍川が見える。大宮神社の前には、大宮口御門跡と碑が建っている。又、当時の「道しるべ」があり「南 こうのすまつやま、北 行田町」と記載されている。

実際の大宮口御門跡は大宮神社の前ではなく、ここより 60m程進んで川を渡って左折し、20m程進んだ所である。

大宮神社は忍城の外にあり、この上忍川が、忍城の境界になっていた。この位置は忍城の裏鬼門にあたり、川の北側には土塁が造られ、川と土塁で二重の守りを固めていた。この場所では、近くの人が、川筋に沿ってガードレールとフェンスに囲まれた場所に植物を植え花壇の手入れをしていた。



大宮神社



石碑

この後、水路は忍城今昔地図の土塁に沿って城の外側を進む。この先、川の側道は、忍城今昔地図にも現在の地図にもない。よって川の少し南側の道を回り道する。

成正寺の裏側に進むと再度川筋に出る。ここで川は大きく北に曲がる。この曲がり角から小宮の森とその北側に天神社の大木が見える。忍城今昔地図によると、上忍川はこの先で忍沼に入っていたようだ。現在、忍沼は小さくなり、ここまでは来ていないので、水路に沿って東へ進む。この水路は忍城今昔地図にも記載されているので、当時からのものである。

水路はときわ肉店の横を通り水城公園の西側に進む。ときわ肉店近くの吹上行路線バスのバス停名が「忍川橋」となっていることは発見であった。水路に沿って歩くと、分水堰があり、水城公園側に流れる支流と教育文化センター・みらいの裏を流れ、県営下忍住宅付付近で新忍川に注ぐ本流に分かれている。

支流側のゲートは閉められており、水城公園側に水は流れていないが、水路は大塚京染店の北側を通って水城公園のしのぶ池に接続されている。従って、上忍川から水城公園に注ぐ水はない。この流入

水路としての池の接続部分に井戸ポンプがあり地下水を池に供給している。又公園北側の滝の水も井戸水で池の水源になっている。その他、池の水源として、池の底に伏流水があることも想像される。



井戸ポンプ



水城公園

4. 下忍川(水城公園～忍川)

水城公園の北側の池を通過して道路の東側に回ると、道路の下を通過して池の水が排出されており、ここからが下忍川(忍沼川という人もいる)である。

この先、左岸側の土地は私有地で公園より一段高くなっているため、下流の暗渠までコンクリート護岸が施されている。公園側の右岸は途中の仮橋までは松杭の護岸となっており、仮橋から暗渠までは疑似松杭(コンクリート製)護岸となっている。又仮橋の手前で、あおいの池からの水路と合流している。

この右手方向に、伊奈利神社があり、入り口に石碑が建っており「忍川、天籟橋、大正15年」とあり、水路の跡もあることから、旧下忍川はここにも流れていたことがわかる(添付の忍町役場土木課実測を参照:昭和2年)。さらに進んで人家の間から77号線に出る部分は暗渠になっている。

佐間天神社横から道路を横切って東に進むと高源寺の裏側に続く道に出る。この近辺には、大谷石の護岸や洗い場の跡が残っていて昔の良い雰囲気を残している。少し進むと道路の左側に昭和9年1月着工、3月竣工の耕地整理の記念碑が建っている。このそばの水路には当時の取水堰が残っている。昭和7年の忍川の工事に続いて耕地整理が行われたことになる。忍城今昔地図はここで終了している。



佐間天神社



高源寺

この耕地整理の結果、ここからの川筋や道路は直線的になっている。

南東に進んで南大通りを横切ると、天理教の支部があり、看板を見ると「ようきくらし 天理教忍分教会」と昔の町名が表示されている。

この先は、かつての「佐間染」の敷地であるが現在、古い建物一つを残して空地になっている。佐間染も下忍川の水を利用していたのかも知れない。

この先は、直線的な水路が行田中学校まで続く。水路の左側が自動車道路、右側が通学道路になっている。通学道路に植物など植えて毎日の通学に趣を出したいところである。

行田中学校の一つ手前に右手から川と交差する幅の広い道路がある。この道は耕地整理される前の旧下忍川を埋め立てたものである。

埋め立てた道路の特徴として、幅が広くうねっている。埋め立てられた旧下忍川は高源寺裏からファッションセンターしまむらの方向に回り込み、現在の下忍川の南側を曲がりくねりながら、行田中学校の方向に進む。そして、途中で北東方向に流れを変えて行田環境センターの後ろで忍川に注いでいた。

旧下忍川が忍川に注いでいた部分に行ってみると旧下忍川の川筋には下水管が埋められているようで、下水路のフラップゲートが見えた。

この近くでは行田環境センターからの排水と緑町方面からの排水が混ざって忍川に排水されており、対岸には旧忍川の取水口も見える。

この一帯は、川幅が広く流れ込む川の水量が多いためか中州のような部分もあり、多くの野鳥が群れていた。

現在の下忍川の水路は、先ほどの交差点(環境センター入口)から南東に進み行田中学校の東で忍川に注いでいる。



環境センター、緑町ポンプ場

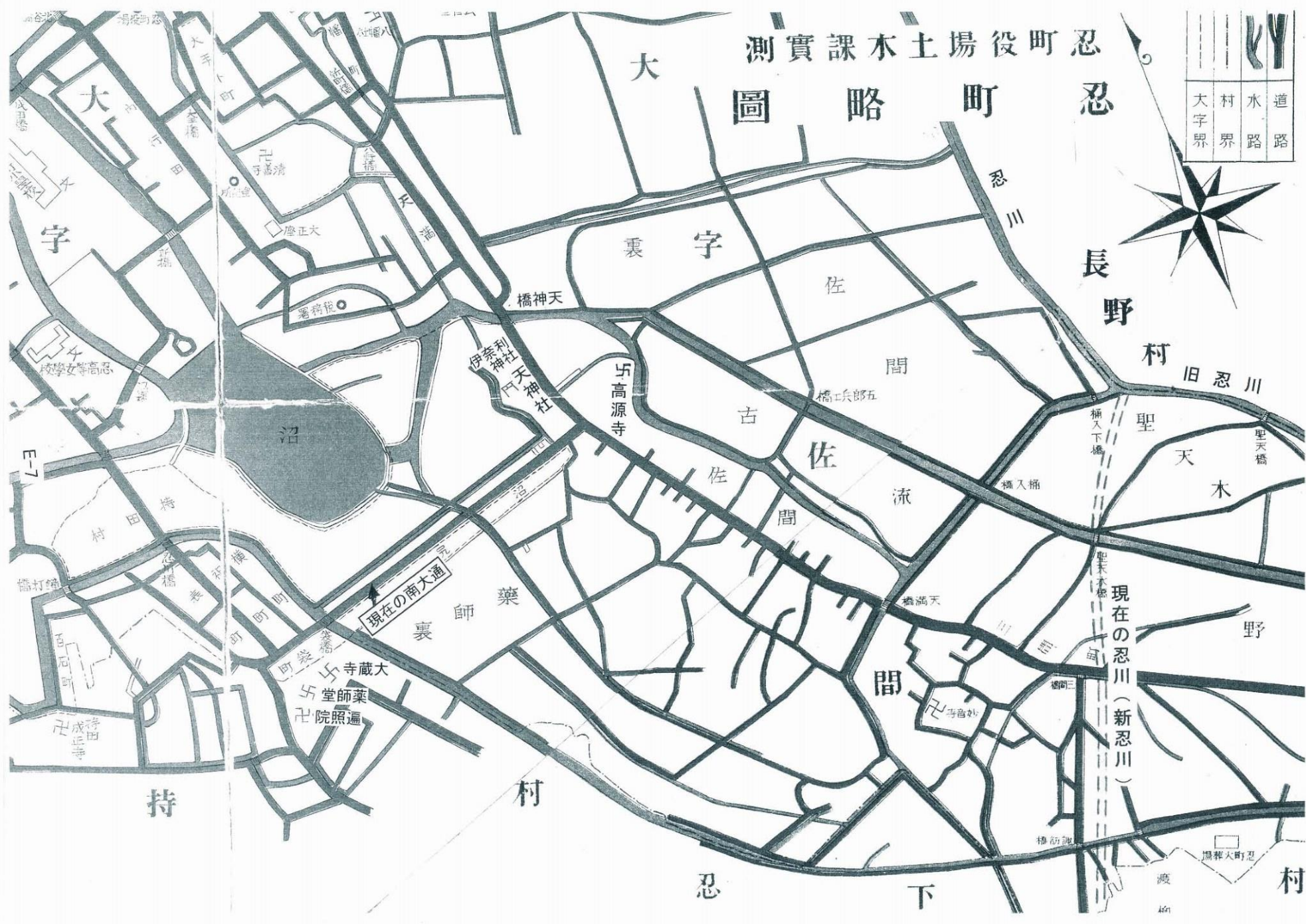
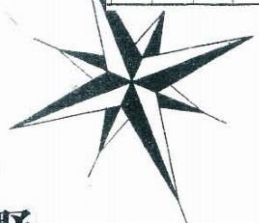


旧忍川流入口

忍町役場土木課實測

忍町略圖

	道
	水路
	村界
	大字界



大野

裏

古佐

長野

村

旧忍川

聖天

木

野

現在の忍川(新忍川)

間

現在の南大通

大蔵寺
薬師堂
照通院

持

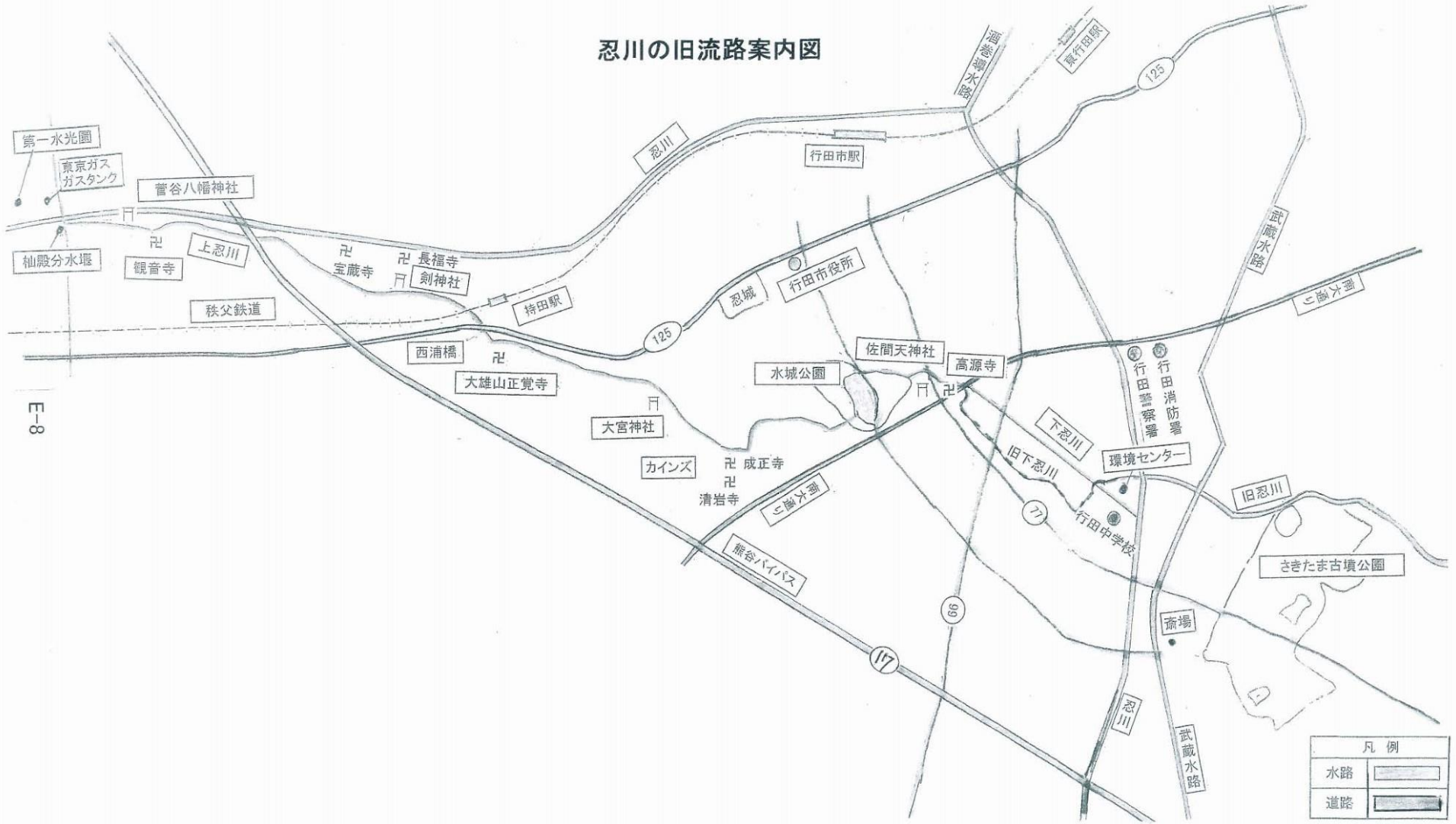
村

忍

下

村

忍川の旧流路案内図



凡例	
水路	
道路	

上忍川(旧忍川)の感想と提案

- (1) 歩いた経路と忍城今昔地図を比較して見ると、かつての川筋が上忍川ではよく残っていた。下忍川では、耕地整理で川も道路も直線化され昔を感じさせるものは少ない。
- (2) 上忍川周辺には歴史的文化財が豊富に残っており、散策して歩くのは楽しい。ただ、文化財を説明する情報が少ないので、通り過ぎてしまう可能性が高い。
- (3) 今回の散策で菅谷八幡神社周辺を除いて、上忍川及び下忍川はコンクリートと鉄柵で囲まれた都市河川となっていた。ただ、高源寺横など一部には雰囲気のある部分も残っている。
- (4) 都市河川も河川の周囲に可能な部分に樹木を植えること。また、案内板等を配置することで、より親しみのある空間ができると考える。
- (5) 水路を歩いてみて、全体的にコンクリート護岸になっており、農業用水路の役目が終わった感じであった。又植栽、花壇も設置出来ない様な場所(例えば宮脇書店から上流の立派な護岸、転落防止柵のある区間)は、熊谷市の星川にあるように川の一部を覆蓋し、東屋等を作り、憩いの空間があればと思う。
- (6) 水路沿いに神社仏閣が多くある。菅谷八幡神社、観音寺、宝蔵寺、長福寺、剣神社、天神社、阿彌陀寺、正覚寺、大宮神社、清岩寺、成正寺、伊奈利神社、佐間天神社、高源寺等。又茅葺きの家も見られた。
- (7) 上忍川等の名称が次の所で見られる。125号線西浦橋手前の秩父鉄道の鉄橋に「上忍川」の標識があった。伊奈利神社の前の水路跡に、忍川(天籟橋)の石碑があった。又、水城公園西側のバス停名が「忍川橋」であった。